

白根大風 インドへ

デリー近郊で来月手工芸祭り

日本の伝統文化PR

新潟市南区の白根の大風が、インドで2月1日から15日間開かれる手工芸祭り「スーラジクンド インターナショナルクラフツ メラ」で紹介される。しろね大風と歴史の館の元職員遠藤裕己さん(74)が現地入りする予定で、大風の魅力を伝えようと意気込んでいる。



制作した六疊風と遠藤裕己さん(右)と妻のイツ子さん(左)、安達京子さん=20日、新潟市南区

両国旗と歌舞伎描く

手工芸祭りが行われるスーラジクンドは、インドの首都デリーの南約20キロのハリヤナ州の都市。毎年、インド各地の手工芸品を集めた祭りが開かれている。今回、日本の伝統工芸と舞踊の紹介を企画しているという。

インドの民俗画などを展示するミニティラー美術館(十日町市)の長谷川時夫館長が、インド大使館から日本の参加者を募るよう依頼を受け、知人の新潟市南区のギャラリーオーナー安達京子さん(66)に白根の大風の参加ができるかを相談した。遠藤さんのほかに、サポート役として遠藤さんの妻イツ子さん(69)と安達さんが現地へ行くことになった。

遠藤さんが、インドと日本の両国旗と歌舞伎「暫」に登場する鎌倉権五郎景政を描いた六疊風を約1週間かけて制作。現地では、六角風3枚とともに展示する

ほか、六角風に桃太郎などの絵柄を描く。白根大風合戦を紹介するパネルも飾り、風も揚げる予定だ。

遠藤さんは「インドも風の文化がある国なので日本の伝統的な和紙、竹、筆で作る風がどう評価されるのか楽しみ」と期待する。イツさんと安達さんも「不安も大きいですが、少しでも白根の風のPRのお手伝いできたらいいい」と話した。

遠藤さん夫妻は30日、安達さんは2月10日に日本を出発する。